

## オープン市場短信 (2016年10月)

2016.10.12

### ◆ 9月のCP市場動向

9月末のCP（短期社債）発行残高は12兆9841億円と、前年同月比で▲1兆7469億円の減額となり、12か月連続して前年実績を下回る結果となった。前月比でも▲1兆7743億円の減額となり、今年3月末（12兆9495億円）に次ぐ低水準の発行となった。大幅減額の要因としては、一般事業法人での有利負債の削減需要による残高調整があげられる。

内訳をみると、減額は一般事法で▲1兆9361億円、その他金融で▲2343億円であった。一方、増額は金融機関で+1105億円、ABC Pで+2856億円であった。

発行レートの動きは、発行減少が影響し運用難が強まり、投資家やディーラーは積極的な購入に動いた。期内物は0%からプラス圏での出会いとなり、期越物は浅いマイナス圏内から0%近辺での出会いとなった。

#### 【新発3M物の発行レート】

最上位銘柄（a-1+格）0%近辺。一般事業法人（a-1格）マイナス～0.004%近辺。その他金融銘柄（a-1格）0%～0.060%。

#### 【業態別残高内訳】

（単位：億円）

業 態	9月末残高	8月末残高	増 減
一般事法	27,771	47,132	-19,361
その他金融	65,102	67,445	-2,343
金融機関	21,064	19,959	1,105
政府系金融	0	0	0
銀行等	12,050	10,530	1,520
証券	9,014	9,429	-415
ABC P	15,904	13,048	2,856
計	129,841	147,584	-17,743

（注：買入消却分含む）

#### 【格付け別の発行レート】

#### 9月のCPLレートレンジ

（単位 %）

格 付	1ヵ月	2ヵ月	3ヵ月
a-1+(一般事法)	▲ ~ —	▲ ~ —	— ~ —
a-1 (一般事法)	▲ ~ 0.0060%	▲ ~ 0.0014%	▲ ~ 0.0040%
a-1+(リース銘柄)	0.0000% ~ —	~ 0.00001%	0.0000% ~ —
a-1 (リース銘柄)	0.0040% ~ 0.0600%	~ —	0.0000% ~ 0.0600%
a-2	0.0014% ~ ケ 0.10%	▲ ~ ケ 0.10%	0.0120% ~ ケ 0.10%

## 《CPオペ》

9月のCP等買入オペは予定通り、6日・13日が各回5000億円、27日が5500億円でオファーされ、合計1兆5500億円であった。7・8月のオペオファー（各々合計1兆500億円）に比べ増額されたことから、按分・平均レート共に回を追うごとに低下した。

【月末オペ残高：2兆2655億円】

### 日銀 CP等買入れオペ実績

(単位:億円)

実施日	実行日	オファー金額	応札額	落札額	按分・全取	平均落札	按分比率
9月6日	9月9日	5,000	8,357	4,990	-0.002%	-0.001%	36.4%
9月13日	9月16日	5,000	8,559	4,998	-0.038%	-0.009%	55.6%
9月27日	9月27日	5,500	11,357	5,500	-0.067%	-0.032%	80.0%

## 《ABCP》

ABCPの月末残は前月比+2856億円増額し、1兆5904億円であった。前年同月比では、▲384億円の減額となった。

## 《短期社債登録状況》

証券保管振替機構によると、9月末時点における発行登録企業数は、光通信と日本住宅ローンが新規登録を行い、ユニーグループ・ホールディングスが登録抹消を行ったことから、521社となった。

## 《CP現先市場》

現先(S/N)レートは、0%近辺での出会いとなっていた。

## ◆ 10月のCP市場動向

10月のCP償還額は約1兆6480億円で、前年同月の償還額（約2兆1170億円）を下回っている（除く、相対発行分・金融機関発行CP・ABCP）。

今月の発行動向は、9月末残がゼロとなった鉄鋼業や大幅減少となった卸売業等の復活発行が行なわれるため、前月対比では発行増が見込まれる。一般事法及び証券会社の資金調達ニーズは依然として弱く、月末の発行残高は13兆円台後半に止まると思われる。

発行レートは、一般銘柄（1格）で0%近辺、その他金融・リース銘柄（同）で0%近辺～0.06%程度の出合いが予想される。投資家やディーラーの購入ニーズは強く、総じて横ばい圏内での動きとなろう。

1日公表の日銀短観では、引き続きCPの良好な発行環境が確認された。具体的には、「CPの発行環境判断DI」において、大企業のDI（全産業）は43%ポイントとなり、6月調査時に比べて+4%ポイントの好転となった。

《CPオペ》

10月のCP等買入オペのオファーは、先月（1兆5500億円）より減額となり、5日・19日・26日に各々3500億円程度で合計1兆5000億円の予定となっている。

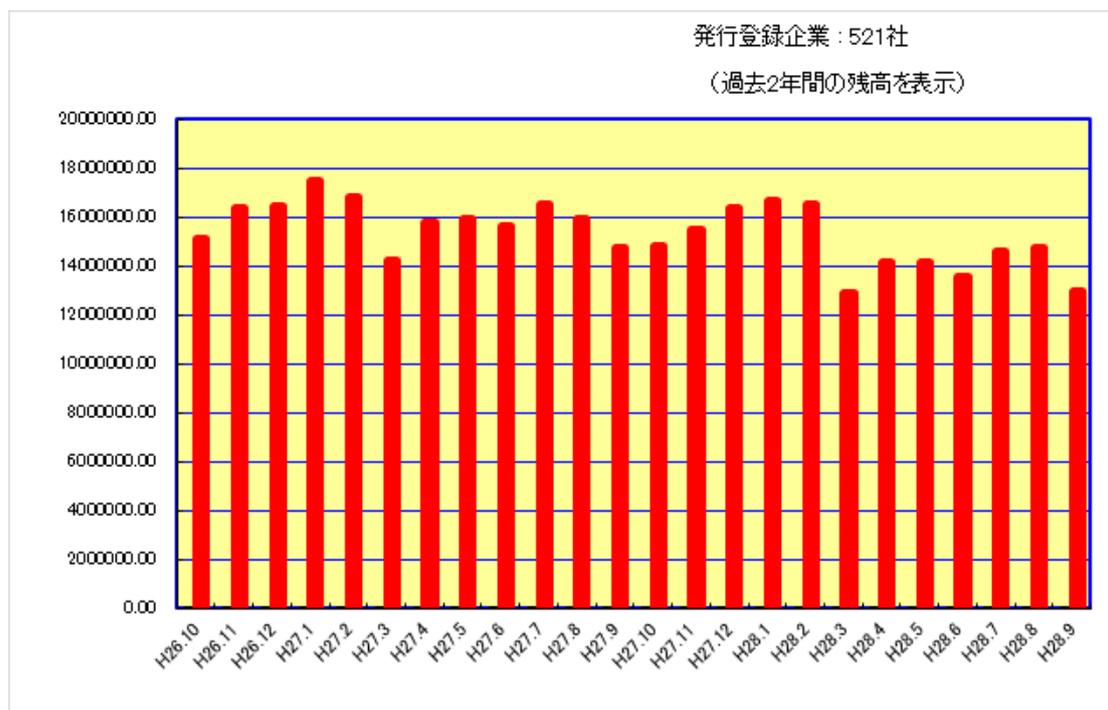
5日のオペは、応札が9474億円とディーラーの保有玉も多かったことから、按分レート・平均落札レート共に▲0.001%と、ほぼ8月のオペ水準に戻る結果となった。19日以降のオペも、オペ対応玉の復活発行等での発行増等による需給の好転から、按分・平均落札レート共に横這い推移を予想する。

《CP現先市場》

CP現先レートは、投資家のプラス圏内での運用ニーズは変わらず、先月同様0%近辺での出合いを予想する。

**参考資料**

短期社債月末残高（26年10月～28年9月）



## 9月末発行残高ベスト10

### 9月末発行残高上位10社

(単位:百万円)

	発行企業名	9月末残高	8月末残高
1	三井住友ファイナンス&リース	861,700	891,200
2	三菱UFJリース	771,800	754,600
3	東京センチュリーリース	600,700	593,600
4	三菱UFJ信託	534,000	369,000
5	コンチェルト・レシーバブルズ・コーポレーション	508,100	427,340
6	みずほフィナンシャルグループ	500,000	500,000
7	JA三井リース	364,000	358,000
8	芙蓉総合リース	361,200	360,700
9	興銀リース	355,400	362,900
10	三菱UFJモルガンS証券	333,000	203,000

参考出所 (株)証券保管振替機構

-----

本資料は投資環境等に関する情報提供を目的として作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。有価証券等の取引には、リスクが伴います。投資についての最終決定は、投資家ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。当社は、いかなる投資の妥当性について保証するものではありません。記載された意見や予測等は作成時点のものであり、正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。

上田八木短資株式会社

登録金融機関 近畿財務局長（登金）第243号

大阪本社 〒541-0043 大阪市中央区高麗橋2丁目4番2号

東京本社 〒103-0022 東京都中央区日本橋室町1丁目2番3号

加入協会 日本証券業協会